

私は鎌倉市立御成中学三年生の山下真理子と申します。

母がフランスのTV局TV5MONDEの仕事をしているため、小さい頃より、母からフランスの話を聞いていました。今日は皆さんにフランス語で話をすることを、とても嬉しく思っています。

私は六歳の時、静岡から鎌倉に転校してきました。

鎌倉に来て最初に驚いたことは、家のすぐそばに海があること、神社、寺がいっぱいあることです。

鎌倉は、12世紀に武士が最初に幕府をたてた場所で、今日でも歴史的な町並みや建物を残しつつ、大自然もあるという、とても恵まれた所です。私はその点に、とても感動しました。

小学校の時から身近に自然と触れ合う環境があり、その大切さや、それらをどう守っていくかを学びました。

鎌倉市立御成小学校では、学校に生えてるヨモギでヨモギ餅を作ったり、夜まで学校にのこり、星を見たり、中学では谷戸という昔から残っている鎌倉山の森に行って森を守っていく大切さを学んだりしました。

自然のこと以外にも、鎌倉でしかできない歴史的な面も学びました。

私達の小学校は、元天皇陛下の御用邸だったところです。学校の門は御用邸の御門だった古い門が今でも使われていて、毎日学校の行き帰りにそこを通るのは、特別な気持ちがありました。学校の建物も木でできていて、そこで勉強するのは、とても心地良かったです。驚いたことに、私達が学校の庭を掘ることは禁じられていました。なぜなら、時々昔の物が地中から発見されるからです。

学校の授業で、自分たちの住んでいる鎌倉の事、小町通りや八幡宮の事を調べて、実際に人を案内したりもしました。

中でも、私が最も好きなものは、江の電です。

私は鎌倉に初めてきたとき江ノ電はなんでこんな遅く動いて、家の軒先近くを通るのかなと思っていました。

今はその理由がわかります。

鎌倉では、全てをありのままに残すのです。ここでは、人も自然も歴史も全てが繋がりが、自然に存在し、お互いに影響し合っています。

私は江ノ電は鎌倉の歴史的建造物、海、山、人、...全てのものが繋がっている象徴だと思います。

鎌倉では、古いものも新しいものも、なにかもうまく融合され、それらが自然に存在していますが、江ノ電があるから、それが可能なのだと思います。

私がこの9年間、自然や建造物をありのままに残す大切さを学んだように、鎌倉の住人達は、そうやってそれをまた次の世代に伝えていきます。だから、鎌倉は豊かな自然や歴史的建造物が今日でも残っているのだと思います。

この大自然と歴史的建造物、新しいものと古いものがうまく融合したこの素晴らしい私の大好きな鎌倉を、是非世界中のたくさんの人に訪れてほしいです。そこで様々な発見をして、自然と歴史的建造物などの大切さをあらためて知ってもらえたら嬉しいです。